



木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを表彰 「ウッドデザイン賞2021」最優秀賞等が決定！



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2021

「ウッドデザイン賞2021」の表彰式が12月8日に行われました。

ウッドデザイン賞は、木にまつわる優れたモノ・コトを表彰する顕彰制度です。木材の利用拡大のためには、消費者の皆さんに、木の良さや価値を再発見できる建物、製品、取組など具体的に提示することが必要との考えから2015年に創設されました。

第7回となる今年度は、全国各地から433点の応募があり、191点がウッドデザイン賞を受賞しました。さらに、この受賞作品の中から、最優秀賞（農林水産大臣賞）1点、優秀賞（林野庁長官賞）9点、奨励賞（審査委員長賞）15点を選ばれ、12月8日（水）、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2021」にて表彰式が行われました。当省からは下野大臣政務官が出席し、祝辞とともに最優秀賞を贈呈しました。

最優秀賞はURASHIMAVILLAGEが受賞しました。讃岐の山々と瀬戸内海が共存する三棟からなる一棟貸し宿泊施設です。URASHIMAVILLAGEをはじめ今回の上位賞では多様なステークホルダーの協働による、木材・森林利用の新たな価値を創出し

たものや、新たな生活様式を反映したものが数多く見られました。

今後も幅広い分野・業種の方々の参加により、新しくモデルとなるような多様な木のデザインが生み出され、木材の利用が更に広がり、木のある暮らしの実現や持続可能な社会の構築に資することを期待しています。



ウッドデザイン賞2021 上位賞作品

最優秀賞（農林水産大臣賞）

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

URASHIMAVILLAGE

（株）金丸工務店（香川県、瀬戸内ビレッジ）（株）（香川県）

地域の11の事業者の連携による、地域の資源と文化を活かした宿泊施設であり、多様なステークホルダーの参画、観光やワーケーションとの連動、環境への配慮などあらゆる点で高く評価されました。





優秀賞(林野庁長官賞)

ライフスタイルデザイン部門

タクマビル新館(研修センター)

〈建築・空間分野〉 (株)タクマ(兵庫県)ほか

木造と鉄骨造のハイブリッド構造の6階建て建物。内と外から木の意匠を見せ、オフィスの木造・木質化を「見せる」先導的なデザインであり、構造体としての木を感じさせることで温かみをもたらす、柔らかかつ洗練された建築物として評価されました。



TRIAxis 須磨海岸

〈建築・空間分野〉 ICADA(東京都)ほか

神戸市の「公募型海の家」として建設。海の家という一時的な中規模施設に木造建築の良さを訴求。屋根に使用したパネル材はCLTの製造過程で生じる巾はぎ板を使用しており、それが軽やかで自然な風合いを醸し出す点などが評価されました。



木製の冷凍ご飯容器「COBITSU」

〈木製品分野〉 (有)大橋量器(岐阜県)ほか

御飯を入れて冷凍しておけば、電子レンジで温めた時に、まるで炊きたてのように美味しく冷凍御飯がよみがえる「枴のおひつ」。家時間が長くなる昨今において、おいしく温かい御飯を食べたいというニーズにヒノキの機能性を使って応えた、ライフスタイル提案型の作品として評価されました。



ハートフルデザイン部門

ザロイヤルパークキャンパス札幌大通公園

〈建築・空間分野〉 三菱地所(株)(東京都)ほか

床材にトドマツ、ルーバーにタモなど、北海道産材を積極的に活用し、木質感を感じられる空間をつくり、宿泊客にリラククスできる時間を提供している点や、上層3階を木造にすることで建築物としての重量を抑えるなど木のメリットを活かすことが考えられている点が評価されました。



KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE

〈建築・空間分野〉 各務原学びの森(株)(岐阜県)ほか

岐阜県各務原市がParkPFI制度を活用して市民公園の近くに整備した子どもたちのための全天候型屋内施設。「森の中の賑わいある新しいまちの顔」にしようとして建物や遊具はすべて岐阜県産木材を使用。子どもの感性を高め、思いっきり身体を動かせるよう工夫がされた質の高い木造施設として評価されました。



山男のガチャ

〈コミュニケーション分野〉 (株)東京チェーンソーズ(東京都)

木を1本まるごと活かす取組みの一環で誕生。東京都檜原村の山で伐採した木の未利用部位を加工して作った雑貨等を販売。玩具のガチャガチャをヒントにしたユニークなアプローチがとて面白く、山側への利益還元の新たな試みである点などが評価されました。



ソーシャルデザイン部門

浜松料理 娯座樓

〈建築・空間分野〉

(株)ドルフィンキッズプロダクション(静岡県)ほか
地元食材を使った料理を提供する飲食店。食

材、木材など地域資源を活用し、地域の魅力を発信している。川上から川下までの地域の事業者が協働により流通の効率化、製品・サービスの高付加価値化に取り組み好事例として評価されました。



木と暮らすデザインKYOTO

〈コミュニケーション分野〉 京都市(京都府)ほか

つなぐ、つかう、つたえるの3つのミッションから、現代の暮らしにマッチする木の使い方をデザイン、発信するプラットフォームを構築。自治体によるビジネスモデル開発型の提案。多様な事業者やデザイナーと協働しクオリティの高いアウトプットを生み出している点も評価されました。



木造大型パネルによる製造・物流・施工の合理化技術

〈技術・研究分野〉

ウッドステーション(株)(千葉県)ほか

木造大型パネルは、設計図書では表現されていない細部の納まりを、デジタルで詳細な施工図で表現することで実現。情報処理、工場生産、現場生産を一体的に実行する新たなビジネスモデルとして評価されました。



ウッドデザイン賞の展開につながる取組など

表彰式とともに、受賞作品の展示、受賞者や審査委員が受賞作品について語るセミナーが行われました。12月8日から10日まで開催された「エコプロ2021」内に会場を設けたこともあり、多くの来場者が足を止め、作品を熱心に観覧されました。

また、表彰式に続いて一般社団法人日本ウッドデザイン協会の設立記念発表が開催されました。日本ウッドデザイン協会は、建築家の隈研吾氏を会長とし、2021年11月18日(木)に設立した法人であり、異業種間連携やビジネスマッチング等により、木を活用して持続可能な社会の実現を図り社会に貢献することが目的とされています。ウッドデザイン賞は、2022年から同協会が運営主体となり実施される予定です。

